

ユネスコ・生命倫理コア・カリキュラム、2011
『利益と害についてのケースブック』2

ケーススタディー2-19：新しい薬剤または手技の使用

翻訳 村瀬尚哉

78歳の未亡人であるCSさんは、末期癌である。彼女は入院し、そこで徹底的な癌治療を受けている。強力な化学療法と、回復が期待されるあらゆる治療を受けてきた。しかしながら、彼女の癌の治癒や進行抑制の効果は認められなかった。彼女の病状は徐々に悪化し、予後不良で、死が切迫している。

通常の治療が不成功に終わったので、CSさんは癌の治癒または進行抑制のために、代替的な薬剤の使用を望んでいる。この薬剤は、何年にもわたり癌の治療に薦められてきた杏の種子から抽出された化学物質である。

その薬剤は、有資格の専門家が必ずしも安全で有効な抗癌薬であると認めているわけではないが、さまざまな人が、その薬剤が癌を治したり進行を制御したり、あるいは治すことはなくとも少なくとも症状を軽減すると主張している。

この薬剤は、食品医薬品局（FDA）や癌学会に承認されていない。一般的に認められた癌治療法であるとは証明されていない。それゆえに、CSさんが治療を受けている病院では、医学的判断の下、当該代替薬を用いた治療をCSさんやその病院の他の患者に許可することを拒否している。

CSさんに、入院している病院が認可していない薬剤の使用は許可されるべきか。

ここに、すべてではないが複数の考えられ得る解決法がある。これを他の解決案と共に議論しなさい。倫理的な論点を明確にして、あなたに最も当てはまる解決策をその理由とともに定めなさい。

NO 比較的毒性はないが有効性が証明されていない代替薬の使用を病院が許可すると、一般人が「誤った希望」にすぎることを助長することになりかねない。このような誤った希望は、一般に、医療の専門家が癌患者に対して有益で効果があると認めている診断や治療を遅らせたり控えさせたりする方向へ導きかねない。

YES CSさんは、「通常の」治療方針に基づいて提案されたすべての選択肢を試みたが、何ら成果は得られなかった。それゆえに、CSさんは彼女の最後の希望として、そして医療の専門家によって現在提供される最も有効な治療を受けたのちに残された唯一の選択肢として、今度は既存のものに代わる薬剤へ目を向けたのである。したがって、公共への害、すなわち、化学療法が奏功しなかった患者に代替薬治療を受ける機会を与えないことで起こりうる問題をかなり緩和することができる。

NO もし未登録薬の使用を許可すれば、その病院は信用を失う可能性がある。特にその治療は連邦医薬品局や癌学会に支持されていないものなので、患者へのケアにおける義務を果す上で、そして、最良の医学的判断を下す上で、この薬剤を使用することは容認されない。

本ケースについてのノート

判決

上記の事案は、その州の上位裁判所で審理された。裁判所は、資格を持った医師の助言に基づいて癌治療を選択あるいは拒否する患者の権利が、国または病院がその治療を認めていようといまいと、本質的に最も基本となると結論した

即時の指し止め命令の請求を棄却すれば、裁判所は事実上、個々人に認められた選択権を損なうことになってしまう。この選択の権利はプライバシー権の基本的原理をなすものである。

ディスカッション

疑いなく、病院は一般の人を守り、そうすることによって病院の評判を守ることを望んでいる。しかしながら、国と州の法律は、最終的に個人が自身の運命を決める際に、最大限の自由を与えることを義務付けている。さらに、患者が癌の終末期にあり他の治療に反応しない場合、代替薬を投与することにより生じるとされている公共への害は相当に小さい。

自身の体を蝕む病気といかに戦うかについて、本人の最後の選択を下す機会を奪うことは、自由な社会における個人の権利の大切さに関する理解が欠如していることを示すことになるであろう。

従来の治療に反応しない深刻な病状にある患者がおかれている状況は大変難しい。患者にとって最善を尽くすことを望む医師は、患者の問題を軽減すべく新たな方法を模索するであろう。

こういった症例における一つの選択肢は、登録されていないあるいは通常の治療と定義されていない治療法を患者に提示することである。患者の利益を求めため、有効性が証明されず、無害であることも証明されていない薬剤の使用を、通常、国は許可しない。

それゆえに、医師は、特に自然療法が標準的な毒性評価を受けていない場合、当該物質が有毒でないことを確認しなくてはならない。

とはいえ、この事例では、患者の回復が絶望的なのか、緩和治療の適応があるのか、また、患者と共有した情報があるのか、その記述がない。このような患者は、死を恐れるというより死に方を恐れることが多い。緩和ケアの多大な進歩は、こういった患者に大きな安心を与え、根治をめざした危険で無益な治療は回避されることになるであろう。